

令和5年度山口県緩和ケア研修会

と き 令和6年1月14日(日) 9:30~17:35

ところ 山口県医師会6階 会議室

[報告: 常任理事 上野 雄史]

本研修は、基本的な緩和ケアの修得、困ったときに相談する必要性を理解することを目的とし、平成20年度から年1回開催しており、今回で15回目の開催となる。平成28年12月にがん対策基本法(平成18年法律第98号)が改正され、国及び地方公共団体は、「がん患者の状況に応じて緩和ケアが診断の時から適切に提供されるようにすること」、「医療従事者に対するがん患者の療養生活の質の維持向上に関する研修の機会を確保するために必要な施策を講ずる」ことが規定された。こうしたことから、国が定める「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」に基づき、県内のがん診療連携拠点病院等でも統一的なプログラムによる研修会が開催されている。平成30年度からプログラムが新たになり、講義の一部がe-learningでの事前学習となり、e-learningと集合研修を組み合わせる研修会に変更となった。本研修会全てのプログラムを修了され、ポストアンケートに回答した方には、厚生労働省健康局長及び研修会主催者の連名による修了証書が交付される。がん性疼痛緩和指導管理料、がん患者指導管理料1・2、緩和ケア診療加算、外来緩和ケア管理料等、本研修への参加が要件となっている診療報酬項目がある。

今回は医師11名、看護師5名と、今回から新たに介護支援専門員2名の計18名が受講された。事前学習のe-learningでは、緩和ケア総論、全人的苦痛と包括的アセスメント、がん疼痛治療、コミュニケーション、ACP、看取りのケア、家族・遺族ケア、社会的苦痛に対する緩和ケア等、多岐にわたっての知識習得が求められた。参加された介護支援専門員の方からは、事前学習にかなり難渋したとの意見をいただいた。

研修会は、研修会企画責任者の山口大学医学部

附属病院緩和ケアセンターの山縣裕史先生に挨拶をいただいた後、山口県立総合医療センターの中村久美子先生にe-learningの復習・質問の講義を行っていただいた。次に、患者や家族を支援しているがん啓発団体「ポポメリー」で活動されている方に、療養体験として、自身のがん療養の体験談、息子さんをごんて亡くされた経験をお話しいただいた。医療従事者として、また一個人として胸を打たれる内容であり、緩和ケアの重要性を改めて考える貴重な機会であった。次に、1グループ6名の3グループに分かれ、アイス・ブレーキングとしてペアで他己紹介を行うことで交流を深めた後、ワークショップ(グループ学習)を行った。ワークショップは、肺がん、多臓器転移の緩和ケア対象者を想定し、全人的苦痛に対する緩和ケア、療養場所の選択と地域連携について演習を行った。各グループ担当のファシリテーターの先生方に上手く助言、誘導していただき、各グループ内で活発な意見交換が行われた。次に、1グループ3名に分かれ、患者役、医療従事者役、観察者役を順番に担当し、コミュニケーションのワークショップ(ロールプレイ)を行った。このロールプレイの目的は、がん医療における患者・医師間のコミュニケーションスキルの重要性に気づくこと、患者役を体験することにより、患者のおかれる状況や気持ちを理解すること、がん医療において悪い知らせを知らせる際のコミュニケーションスキルに関する知識を得ることである。医師として患者の気持ちを汲み取りながら伝えることの難しさや、がんを伝えられた時の患者が受けるつらさを疑似体験することができ、大変有意義であった。ロールプレイ後に、医師役はうまく説明ができたかどうかの感想を述べ、患者役は医師の説明の感想と患者として感じた思いを述べ、観

察者役を含む皆でどのように説明すれば、より有用であるかのフィードバックを行った。最後に、すえなが内科在宅診療所の末永和之先生にがん患者への支援の講義をしていただき、がん患者・家族のサポート、がん相談支援センター、就労支援について学び、研修を終了した。

本研修会は毎年山口県からの委託事業として開催しており、来年度も開催予定である。ぜひ、多くの方に参加いただき、緩和ケアに関しての知見を深めていただきたい。本研修を企画運営いただいた企画責任者の山縣先生をはじめ、ファシリテーターの先生方に厚くお礼申し上げます。

研修会企画責任者

山縣 裕史 (山口大学医学部附属病院
緩和ケアセンター)

研修会協力者

末永 和之 (すえなが内科在宅診療所)
立石 彰男 (宇部協立病院)
松原 敏郎 (山口大学大学院医学系研究科
高次脳機能病態学講座)
中村久美子 (山口県立総合医療センター)
篠原 正博 (しのはらクリニック)
亀井 治人 (山口宇部医療センター)



閑話求題

部活

宇部市 徳久 隆弘

2023年日本のスポーツの話題としては、野球：WBC日本優勝・大谷翔平ドジャースと契約、サッカー：ヴィッセル神戸 J1 優勝、テニス：全仏オープン車椅子部門男子シングルス17才小田凱人優勝、その他バスケットボール男子パリ五輪出場権獲得・ラグビー W 杯フランス大会などがありました。皆様も学生時代は、部活でスポーツをされていた方も多いのではないのでしょうか？私自身

も、小学校：サッカー・野球、中学校・大学：サッカー、高校：テニス部に所属していました。そして仕事を始めたころは年に数回、サッカー、テニス、ゴルフをしていましたが、最近はほとんどしていませんでした。

そのため2023年10月：職域テニス大会、11月：医師会ゴルフに参加させていただいた時は、成績も実力も最下位レベルで、自分の実力に愕然といたしました。そこで、2024年は自分の中で「部活」を開始しました。といっても、定期的に練習や大会に参加することなのですが…。テニス、ゴルフをされている皆様にはお誘いの声をかけていただければと思います。